

チャレンジコミュニティ



Challenge Community Club

通信 第48号

2022.8 vol.48



芝浦中央公園のバラ



2022年 第7回総会・ホームカミングデイ



明治学院高校ゲストスピーカー



2021年度 14期生修了式

CONTENTS ■ごあいさつ

港区長 武井 雅昭
明治学院大学副学長 永野 茂洋
CCクラブ代表 石川 啓子

- 2022年度 CCクラブ新体制の紹介
- 2022年度第7回CCクラブ総会(書面議決報告会)・ホームカミングデイ講演会(第5回学ぶ会)
- 学ぶ喜びと出会いをありがとう！
～14期生から寄せられた声～
- 明治学院高等学校家庭科授業ゲストスピーチ
- 運営委員会報告

チャレンジコミュニティ・クラブの 皆さんへ

■港区長 武井 雅昭

チャレンジコミュニティ・クラブの会員の皆さんには、日頃から、地域活動の担い手としてご活躍いただくとともに、港区政の運営に対しても、格別のご理解とご協力をいただいております。深く感謝申し上げます。



長期化する新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、人と人との交流が制限されましたが、一方で、新しい生活様式が浸透する中、オンラインの活用などICT利用が大きく進展しました。区は、デジタル化の急速な進展から誰一人取り残さないために、デジタルデバイドの解消に取り組めます。今年度から新たに実施する町会・自治会のデジタル化を支援する「デジタルお助け隊」には、チャレンジコミュニティ・クラブの皆さんにご協力をいただいております。大変感謝しております。

また、区は、区民一人ひとりが大切にされ、多様性を認め合い、だれもが安全に安心して、自分らしく心豊かに暮らすことのできるまちをめざしています。その実現のためには、地域活動に積極的に取り組んでいただく、コミュニティリーダーの存在が欠かせません。皆さんが、感染予防と社会活動の両立を図り、地域活動に積極的に取り組んでおられることを非常に心強く思っています。

さらに、区は、地域との強い結び付きを基盤に、多様な連携の力を結合することで、大きな推進力を生みだし、区民の皆さんが誇りに思える「未来へ続く、笑顔あふれる洗練された港区」を実現し、希望に満ちた明るい未来を切り拓く決意です。

チャレンジコミュニティ・クラブの皆さんにおかれましても、これまで培ってこられた知識や、経験を存分に生かし、引き続きのご協力をよろしくお願い申し上げます。

結びに、チャレンジコミュニティ・クラブの今後の益々のご発展と、会員の皆様のご健勝、ご隆盛を心からご祈念申し上げます。

CCクラブのみな様へ

■明治学院大学副学長 永野 茂洋

明治学院大学の社会連携担当副学長を拝命して今年で7年目となりましたが、最初の年のCCクラブの活動報告会で、みな様の非常に広範囲にわたる、各地区での多様な活動報告を拝聴したときの驚きを今もありありと思い出します。7年経って、当時よりも会員数は増え、活動にももちろん変化はあるわけですが、クラブの潜在的なエネルギーはますます強くなっているのではないかと拝察しております。



大学はこの2年半、コロナ感染症の感染拡大・縮小の状況変化をできるだけ見越しながら、白金と横浜両キャンパスにおけるICT環境を大幅に改善して、全科目のオンライン授業化を可能にし、また、学生に対しても自分のICT環境を整えるための奨学金制度を整えるなど、学生がとまかく諦めることなく学びを継続できるようにと努めてまいりました。

CCクラブも、この間代表はじめ運営部門のみな様と各地区、また、会員のみな様お一人おひとり、あるいは、活動グループ同士の間でのコミュニケーションツールとして、非常に速いスピードでICT環境を整備されました。関係者のみな様の目に見えないところでのご努力とご奉仕があったのだろうと拝察しておりますが、その結果、この間にみな様が修得された技術とその実践は、港区における地区と地区とのつながりに、あるいは、それぞれの地区での支所との協働の活動に、かならずや大きな力を発揮して行くに違いありません。

デジタル化の急速な進歩は必ずしも明るい面だけではありません。誰一人とり残されることがないようにという港区様の姿勢は、明治学院大学のDo for Othersの精神とも相通じる、特に大切な点であろうと存じます。CCクラブのみな様がこの間に培われた力をその方面でも十分に発揮され、それを通して、今後ますますCCクラブらしいよき活動、よき交流の実をむすび続けていかれますようにと心よりお祈り申し上げます。

私たちの学びを強みに

■CCクラブ代表 石川 啓子（8期）

令和4年度の総会は感染予防を配慮して、昨年同様に書面議決、ホームカミングデイは講演会を行い、みな様が楽しみにされた交流会は中止になりました。



この2年間はコロナ禍での闘いでした。みな様の安心・安全、感染予防に配慮しながら「活動を止めない」「かつての日常を取り戻す活動をしながらも学びを生かし、地域活動を支援する」を基本に運営しました。従来のコミュニケーションと新しいコミュニケーションを併用し、CCクラブ内外の交流を促進しています。デジタルを身近に感じられる活動を継続して進めています。昨年来のプロジェクトも継続しながら、その中でそれぞれの独自性を尊重しながらも課題を共有し、CCクラブ全体で出来る支援をしていきます。昨年度「学ぶ会」を発足し、学びを深め、広げています。明治学院大学様、港区様、港区関係団体様との連携も深めてきました。港区の「デジタル活用支援員」としての協力やCC大学募集時には、各支所での説明会に代表、副代表、各地域CC代表などの方が参加しました。港区社会福祉協議会とJALインフォテックとPC、スマホ等のセキュリティについて共同講習会を実施しました。さらに、「ラクっちゃ」や「ういケア」の団体登録は、会員みな様の活動の場を広げることに繋がりました

今年5月に明治学院高等学校のゲストスピーカー授業が再開され、会員が「これまでの人生と現在の活動」を語りました。その語りから、私自身はもとより、この数年の急激な時代変化の中で、CCクラブの活動も「今、私たちにできることは何か」を問われている気がしました。

今まで普通に感じていたコミュニケーションがいかにか大事なものかを感じた2年間でした。残念ながら、コロナ禍はまだ続きます。この学びを私たちの強みにもう少し頑張りましょう。

チャレンジコミュニティ通信は、 地域活動推進の情報を提供します

港区は、2007年4月に地域活動のリーダーを養成することを目的として、明治学院大学との連携により、チャレンジコミュニティ大学を開設しました。この大学は港区在住の60歳を超えた方を対象に各々がこれまで培ってきた知識・経験を地域に生かし、生きがいのある豊かな人生を創造し、また学習を通じて個々の能力を再開発することを目指して創設されました。

2008年3月、第1期生の修了を機に自主的な運営組織として、チャレンジコミュニティ・クラブ(略称CCクラブ)が創設されました。この大学で学んだ知識を活用し、地域課題の解決に向け、会員が地域活動を推進することを目的としています。このクラブは地域活動のリーダーを育て、港区のまちづくりや地域ネットワークの構築を進め、併せて各人の資質の向上をはかっています。

この目的に沿って、CCクラブ会員が自主的に地域活動をしています。CCクラブ会員を対象に地域活動推進の情報提供や活動状況を紹介するため、チャレンジコミュニティ通信を発行しています。

年間を通しての全体活動として、コロナ禍で中断しているものもありますが、主な活動は以下のようなものがあります。

- ・総会、ホームカミングデイ
- ・明治学院大学との協働活動
- ・みなと区民まつりへの参加や港区との協働活動
- ・港区社会福祉協議会地域福祉フォーラムの運営協力や協働活動
- ・活動報告会

また、地域での活動としては各地域CCクラブ

- ・芝CCクラブ（芝地区）
- ・明虹会（芝浦・港南・台場地区）
- ・高輪地区CCクラブ（高輪地区）
- ・3Aクラブ（麻布・赤坂・青山地区）

での活動や多くの活動機会ができています。

様々な機会を通してご自分でできることを探しチャレンジしてみてください。

また会員相互の情報としては各団体等での会員の活躍状況や、クラブ企画の講演会・講習会、施設見学会の開催案内等を適宜紹介していきます。

2022 年度 CCクラブ新体制の紹介

副 代 表

太田 則義 (7 期)

2021 年度はコロナ禍の状況が続き、会員の皆さまの活動同様に運営部門の活動も大変苦勞の多い年でした。

その中でも役員会では各部会長が力を合わせてある程度の成果が上げられたと思っています。

対面型の活動ができない状況が続きましたが、新しいコミュニケーションツールのリモートと対面型を併用し状況に合わせた新しいスタイルを考え活動しました。CCクラブ内に留まらず、地域の活動にも反映し協力できたと思います。

運営委員会では、10月、11月に皆さまで議論をし、運営委員の選出方法を検討しました。1月、2月の議論で、運営委員会の提案を2022年度計画に反映することができました。

2022年度は感染症対策をしながら活動を復活させる年になると思いますが、従来以上に難しいことと思います。また、CCクラブが発足し15年が経過し新たな課題も出て来ました。明治学院大学様、港区様、関係行政団体様と会員の皆さまがつながる活動に心掛けながら活動してまいります。

皆さまのご協力をお願いいたします。

企 画 部 会

阿部 令子 (10 期)

制限のある日常が続いて2年余り、企画部会では、いち早くZoomミーティングを取り入れて、毎月1度の部会を開催し、滞ることなく活動してきました。

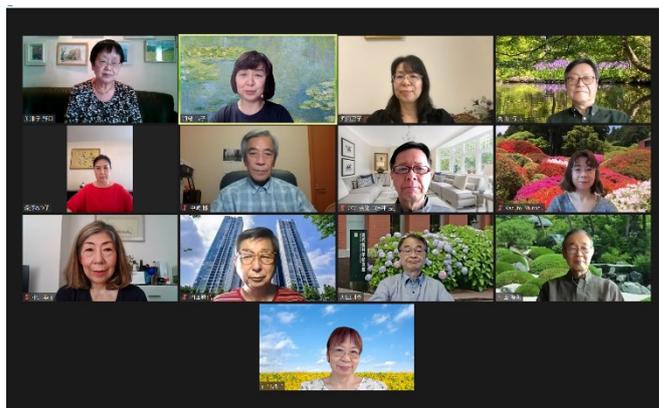
昨年度は、オンラインと会場でのハイブリッド形式で「学ぶ会」を開催し、感染対策を講じながらの「まち歩き」も実施、大勢の参加者に恵まれ無事に行うことができました。また、CC大学と同じような中野区のグループとオンラインで交流もできました。

さらに、役員会メンバーにもご協力いただき、

Zoom講習会を14期生まで拡大して開催、気軽に楽しく親しい人とオンラインで語り合えるように、お手伝いをしています。町会へのIT講習会や、港区社協開催JALインフォテックによるセキュリティ対策講習会にも協力いたしました。

今年度も引き続き、多くの皆さまがご参加くださるよう、興味を持っていただけるような企画を、部員一同知恵を絞って、時に役員会のお力添えをいただきながら、計画・検討して参ります。

企画部会からのご案内がお手元に届いた折には、一度お目通しいただければ幸いです。



ホームページ部会

福岡 哲郎 (10 期)

部会長の仕事も3年目を迎えました。今年は、部会員が2名増え6名体制で活動できることを皆で喜んでいきます。

今年は、対面での会議を基本として例会を開催しています。その中でSNS (Twitter、FaceBookなど) を活用したコミュニケーション活性化の方法等を皆で試行して行きたいと考えています。

また、HPへ身近な情報を掲載してみたい！と思われている方、投稿方法の研修会を随時開催していますのでご連絡ください。

連絡先は、下記メールアドレスへ

Email: fukuoka.te@dream.ocn.ne.jp



地域連携部会

太田 則義（7期）

2021年度も新型コロナウイルス感染者数が減少せず、2020年度同様思うような活動ができませんでした、その中でも、「クローズアップCC」を4テーマで配布し、運営部門、地域CCクラブ、港区と明治学院大学が集まる地区CC会議は4回開催しました。また、CC大学14期生を対象とした1 Day for Othersを行いました。

2022年度は継続した部会員7名に加え、新規と復活会員4名を加え11名で活動しています。

今年度は従来のテーマに加えて、会員のボランティア活動支援を目的として「このゆびと～まれ」を新しい目的と形式で発行すること、多世代交流を目的とした「昔遊びの継承活動」を行います。また、明治学院大学生対象の1 Day for Othersも既に行い、15期生版と合わせて推進します。すべての活動で協力していただける方を募っています。

部会員一同、頑張っ活動していきます。



会報部会

瀬能 正実（10期）

昨年度に引き続きメンバーとなってくれている6人に、新メンバーお一方がジョインされ7人で活動することになりました。

CCクラブ通信の発刊が主な業務であり、今年度は8月の発刊と来年3月の発刊を予定しています。

内容は港区、明治学院大学関係者の挨拶紹介、CCクラブの活動報告が主たる業務ですが、会員皆様の活動内容紹介をとりあげる予定であり皆様の投稿をお待ちしています。

又、昨年来部会員の手で入稿データをつくる事を目指しております。冊子作製にご興味ある方は是非会報部会にご参加ください。



総務部会

岩佐 徳太郎（9期）

総務部会はCCクラブ活動の円滑な運営を図るため、運営委員会に必要な資料及び議事録の作成並びに各種イベントのお知らせ等をメール（一斉送信）により会員の皆様へお知らせをしています。

また、活動報告会、ホームカミングデイ等のイベントの準備・進行・運営を支援しています。

ここ数年、新型コロナウイルス感染拡大により、人が集まることができない、会議等が開けないなど困難な状況下においても、会議等の運営方法を見直し、新たな会議ツールとしてZoomを活用したオンライン会議を実施し、CCクラブ活動の円滑な運営を図っています。

さらに、港区行政、明治学院大学や社会福祉協議会等との連携を図り、それらの関係先から得た情報をCCクラブ会員に提供し、地域貢献活動の一助を図っています。

次の写真は総務部会の皆さんです。



ときには総務部会をお茶会にして、楽しく活動できるように懇談しながら進めています。

皆さんも総務部会で一緒に活動しませんか。会員の皆様にはお願いです。ぜひ、総務部会に参加して頂き、私たちと一緒に活動して、CCクラブの円滑な運営と活動推進に寄与してください。

2022 年第 7 回 CC クラブ 総会 (書面議決報告会) ・ホームカミングデー

2022 年の総会とホームカミングデーは昨年と同様に、新型コロナウイルス感染状況の影響があり、5 月の運営委員会にて総会議案については書面表決とし、総会を書面議決報告会としてホームカミングデー講演会と合わせてリモートと会場で行うことで決まりました。

6 月 18 日 (土) 明治学院大学 3201 教室の会場には会員 43 名、来賓 5 名の方とリモートには 34 名の会員が参加しました。

6 月 18 日 (土) は梅雨のなか天気にも恵まれ、運営委員、部会員そして一般の会員がスタッフとして協力し、会場準備をしました。昨年に比較して感染者数は減少した状況でしたが、会場の 3201 教室では感染症対策として手指消毒、検温後に受付をし、教室内は参加者に座席の間隔を空ける協力をしていただきました。

13 時 30 分に太田則義副代表 (7 期) の司会で始まりました。

CC クラブ 石川啓子代表 (8 期) 挨拶

コロナ禍での生活が 3 年目になり、私たちは徐々に新しい生活様式にも慣れて来ました。

3 年前まではリアルに会って生まれるコミュニケーションの大切さを感じていましたが、この 2 年間は新しい技術を取得し、高齢者でも対応できることも感じました。

本日もリアルとリモートのハイブリッドで開催いたします。

本日ご参加いただいた港区の皆さま、明治学院大学の皆さま、そして CC クラブを支えていただいている港区社会福祉協議会、介護予防センターラクっちゃ、がん在宅緩和ケア支援センターういケアみなとの皆さまに感謝いたします。

明治学院大学 永野茂洋 副学長 挨拶

明治学院大学はこの 2 年間コロナ対策に追われましたが、特に授業関係では IT 関係機器の整備から学生へのパソコン購入支援もしました。

CC クラブの皆さんのパソコンや通信の対応力は素晴らしく、驚いています。

4 月 24 日のロシアのウクライナ侵攻は私たちの暮らしにも大きな影響を及ぼしています。この影響で貧困の問題など、見えていたものが見えなくなってしまうことも起こります。港区も様々な対応をすると思います。新しい試みも必要ですが、

既存のものを創意工夫して使うことが大切と考えています。

CC クラブにおいても地区の底上げや隠れたものを発見すること、創育工夫をこらした活動に期待しています。

港区高輪地区総合支所 山本睦美 支所長 挨拶

CC クラブの皆さまには様々な地域活動の活性化などにご協力いただき感謝しています。

4 回目のワクチン接種が始まりましたが、感染症対策をしながら地域のイベントも再開しているように感じています。港区は IT を利用した活動に対して IT を上手く使えない人を一人も取りこぼさないための対策を実施しておりますが、ここでも CC クラブのご協力をいただいています。所謂ウイズコロナのなかで CC クラブでも活動が活発化すると思います。港区も地域の方々と共に、取り組んでまいります。



2022 年第 7 回 CC クラブ 総会 (書面議決報告会)

議題説明に入り、石川代表が第 1 号議案 (2021 年度活動実績、会計報告)、第 2 号議案 (2022 年度活動計画案)、第 3 号議案 (2022 年度役員選任の件) をパワーポイントで説明をしました。

第 1 号議案 (2021 年度活動実績)

2021 年度運営部門活動実績と会計報告を説明しました。

第 2 号議案 (2022 年度活動計画)

・2022 年度運営方針

コロナの感染状況を判断しながら、日常を取り戻す活動を推進し、学びを生かしながら、地域活動を支援する。

(1) 従来形態のコミュニケーションと新しいコミュニケーション形態を併用し、CC クラブ内外の交流を推進する (2) 運営部門の活動について

ては計画を確実に実行する。地域CCクラブ活動については独自性を尊重し課題を共有する。そして自主グループ活動については支援できることはCCクラブ全体で支援する。

- ・運営方針に基づき6つの活動テーマを設定し、運営委員会、役員会は活動します。また、地域CCクラブは独自に計画をたてて活動します。

第3号議案（役員候補選任）

石川代表が役員候補6名を紹介しました。

引き続き、岩佐総務部会長より書面議決の結果報告が行われ、承認が確認されました。

総会開催案内 711通、

回答数はハガキ・FAX173通、メール78通、合計251通で回答のうち賛成249通、反対0通、無効（回答なし）2通でした。

説明終了後、質問を受け付けましたが特にありませんでした。

総会終了後役員6名が壇上に上がり自己紹介をして終了しました。



総会資料はホームページをご覧ください。

ホームカミングデイ (第5回学ぶ会)講演会

港区の温暖化対策について

講師 港区環境リサイクル支援部
環境課地球環境係長 秋葉大輔

地球温暖化の影響、仕組みと港区の現状について

- ・地球温暖化に伴い、気温上昇や気候変動による様々な影響が起きている
- ・地球温暖化はCO₂をはじめとする温室効果ガス排出量の増加が主な原因です。
- ・港区の現状について: CO₂の排出量は近年減少傾向となっているが、1990年代と比較すると増加している。23区別で比較すると20年以上に



亙り港区は最多である。

- ・港区のCO₂排出量の約8割は、建物から排出され、電力の利用に伴うものが約7割を占めている。この内約9割が民生業務部門と民生家庭部門の合計である。

港区環境基本計画のめざす環境像と基本目標

1. めざす環境像

多様な暮らし・活気・自然が調和する持続可能な都市みなど

2. 5つの基本目標

基本目標1: 脱炭素社会の実現と気候変動への適応による安全・安心なまち

基本目標2: ごみを減らして資源が循環するまち

基本目標3: 健康で快適に暮らせるまち

基本目標4: 水と緑のうるおいと生物多様性の恵みを大切にするまち

基本目標5: 環境保全に取り組む人がつながり行動を広げるまち

3. 政策体系として各目標に施策を提示

4. 港区環境基本計画（港区環境率先実行計画）

- ・令和3年2月に新たに策定した港区環境基本計画で、「2050年までに区内の温室効果ガスの排出実質ゼロ」を達成することを定めるとともに、令和3年3月にゼロカーボンシティの実現に向けて取り組むことを表明

- ・区の事務事業における二酸化炭素排出量削減目標を定め、各課・施設は省エネ等を実施

5. これまで以上に求められる節電・省エネ

- ・東日本大震災後初めての電力ひっ迫警報

令和4年3月、地震により火力発電所が停止したことに加え、急激な気温の低下に伴い電力需要が大きく増加すると見込まれたため、政府は初めて東京電力管内に電力ひっ迫警報を発令

- ・エネルギー価格の高騰による安定供給の危機
ウクライナ情勢等を背景に原油、天然ガス等エネルギーの価格が高騰。エネルギー源のほとんどを海外からの輸入に依存している日本は、エネルギー安定供給の危機

MINATO節電アクションへの協力を!

東京エリアの令和4年度夏季の電力供給余力予備率は3.1%で、過去5年で最も厳しい状況です。

その後、質疑応答があり講演会は終了しました。

講演会資料はホームページをご覧ください。

学ぶ喜びと出会いをありがとう！

～14期生から寄せられた声～

14期のチャレンジコミュニティ大学では、2年越しで全教科を受講することが出来、念願かなったという気持ちです。多彩な講義内容にも満足しました。仕事柄自然科学系の事項は親しんでいましたが、社会福祉や貧困問題に関してはあまり触れる機会がありませんでしたので、とても勉強になりました。今後、これらにも関心を向けて社会のありようを考えていきたいと思えます。

I. K.



入学式

公立大学の工学部を卒業しサービス会社の技術部門で40年以上仕事をしてきた小生にとって、カトリック系大学における社会学などの講義は大変新鮮に感じました。健康スポーツや港区業務の講義と共に今後30年の人生に活かしていきたいと思えます。大学運営に携わった皆様、ありがとうございました。

藤田 泰彦

コロナで、大学生がリモートの中 対面授業が受けられたのが スゴイ！
関係者の方々に感謝します。

Y. O.



増上寺見学

一年延期された後の入学。見学・鑑賞等ほとんどなく、大半がキャンパス内講義で少し残念だった。しかし、様々な分野の専門家から熱のこもった講義を直接聴く機会を頂けたことは、自分にとって非常に有意義な一年間となった。CC大学関係者の皆さまには感謝申し上げたい。メンバー同士のコミュニケーションの機会が少なかったが、CC大学修了後も繋がっていただけたらと思う。

R. F.

一年遅れの入学でしたが、全過程、対面で味わえたのは幸いでした。自粛生活の中でシニアにとりましては、フレイル予防が重要なことです。CC大学に通う為には、規則正しい生活と運動に心掛けるようになりました。何といたっても友人に会えることが生きが이었다と言えます。「あなたにとって大切なことは」というアンケートで、自分を振り返ってみました。40歳代では「家族、仕事、友人…」と答えていたかと思うのですが、今は、「健康」でした。まずは、自分が心身ともに元気でなければと感じる日々です。

鈴木 泰子



スポーツ実習

出来ましたら、もう一年通いたかったと思えます。とても実りの多い一年でした。今まで知らなかった分野の講義は魅力的であり、時々難解な授業もありましたが、新鮮で勉強になりました。同世代の方々とお知り合いにもなれましたが、如何せんコロナで課外活動や飲食を伴う会合、見学などが多く割愛されたのが残念でした。全講義をズームではなく対面で受けられたのはラッキーでした。

野々村 由紀子



議会棟見学

修了式が終り、一ヶ月がたちました。最初はコロナ禍、不安と希望が入りまじり、入学式を迎えました。講義が始まり、いろいろ変更になる事がありました。楽しく授業を受ける事が出来ました。少しは固い頭もやわらかくなり？一年間無事修了しました。年齢に関係なくチャレンジした事、本当によかったと思います。心残りには1日休み皆勤賞が頂けなかった事です。明治学院大学の先生、事務局の皆様に感謝申し上げます。ありがとうございました。 Y. T.

“I am a part of all that I have met.” (私というものは、今までに会った人の一部分である) 最近読んだ英国の詩人アルフレッド・テニソンの本の印象的な一節です。CC大学に入り尊敬できる友と出会い、共に学べた事に感謝しています。今後はCC大学で学んだ知識や経験を周囲に伝え動く事で、私自身も地域の方々の良き“part”になりたいと思います。

須田 房子

とても充実した内容の濃い一年間を送らせて頂きました。今まで眠っていた脳が活性化され、改めて自己啓発に努める日々だった様に思います。多岐に渡る講義は学生時代とは全く味の異なる受け止め方が出来、感慨深い時間だったと思っています。

Y. 2.

コロナ禍でのCC大学であり、行事の中止などもありましたが、学びの多い有意義な一年間でした。通常のCC大学の生活が体験できなかったことは、とても残念でした。 K

何十年ぶりかの学生にもどり、CC大学のある日は早朝から目がさめ家の事はさっさと済ませ、明治学院の門をくぐりました。大学の講義は思ったよりも楽しく、年を重ねるごとにゆるんだ私の頭にも入りました。私に関係の深い長野や岩手の授業も楽しい思い出です。また、なまった体を動かす体育も楽しい思い出です。本来なら平穏な日常のはずがコロナ禍で理不尽な出来事も多く、遠足やら1泊研修等々お楽しみはなくなってしまいました。高輪支所の方、明治学院の職員の方はじめ、多くの先生方のお陰で有意義な一年を過ごせた事に大変感謝しております。

出野 綾子



自然探索

なじみのなかった貧困問題、福祉、医療など広い範囲の講義を受けて、幾つも眼を開かれたように思う。個人的には財政学、民法などの講義が今後の学習意欲を興してくれた。(修了式の後、正門脇の看板で明治学院には国文科がないことを知った。残念なことである。日本人であれば誰も聖書は日本語で読むであろう。)

松村 知行

早めに登校して、校庭のベンチで寛ぐのが常、キャンパスライフを体験させて頂きました。また、徒歩で通っていただけましたので、高輪、白金の地理に明るくなりました。肝心の講義の方は理解不足のせいか、途中から眠くなることシバシバで、申し訳なく思っています。 荒川 太



チャペル見学

コロナ禍、例年とは異なった環境下での勉強でした。もっと皆さんとコミュニケーションがとれれば良かったと残念に思いました。年齢とともに興味のない事には目をつぶりがちですが、いろいろな授業の中、講師の先生方、準備された担当者の方々の努力で楽しく刺激を頂きながらの一年でした。日々、硬くなる頭と体を時代に取り残されないように少しずつでも皆さんと一緒にチャレンジしていきたいと思えます。

T. N.



修了式（修了証書授与）

様々な分野の専門の先生方による授業を毎回楽しみに明治学院大学に通いました。張り合いのある充実した一年間でした。コロナの為、グループ活動ができなかったのが残念ですが、CC大学で学べたことはとても良かったと感謝しています。人との繋がりを広げ、地域社会に少しでも貢献できればと思っています。 J. T.

コロナ禍、生徒同士の交流が図れない中、SNS、LINEでの交流で、グループのメンバーと少しでも会話の場が作れればと思い、グループLINEでの気軽な交流が出来て良かったと思いました。

久しぶりの講義は、先生方の熱い思いと楽しい指導のもと、とてもわかりやすく学生時代より90分が短く感じられるほどでした。先生方、事務局の方には大変感謝しております。有難うございました。 滝口 厚子

社会福祉という今まであまり縁のなかったテーマを一年間学ばせていただきました。高齢者、社会的弱者、子育て、少子化、住環境、地域安全対策等の興味深い諸問題が取り上げられていました。一般区民が安心して生活できる地域作りが、一番大切だと再認識しました。学んだ経験を港区民の一人として、何が出来るか考えたいと思えます。 角田 郁江



修了式

二年以上続くコロナ禍での生活。地域差や個人差はありますが、いまだに多くの方が不安や不便を感じているはずです。そんな中、私はCC大学で勉強する事となりながら、季節の移ろいに目を向けたり、友と励まし合ったり、現状を受け入れつつ学生生活を送りました。内容は、地域社会から、行政、法律、経済、老年期の心理、文学芸術、健康スポーツなど、講義、見学、実習も致しました。皆で学ぶと言う事は、私達を純粋にし勇気づけて下さいました。講師の先生方、スタッフの皆様への感謝の念を改めて確認させていただきました。 小林 満子

明治学院高等学校家庭科授業 ゲストスピーチ

在学中はありがとうございました。名誉教授、教授の素晴らしい講義は、私のかげがえのない財産として大切に参ります。現在も頂いた資料を読み返しております。 Y. I.

講義の内容を振り返ると、様々な分野の多数のテーマを受講できたことに充実感が蘇り、講師の先生、大学・事務局の皆さん、港区他関係者に感謝します。

まず全ての先生が熱い心をもって講義されていたことが素晴らしいと思いました。個々のテーマについては、私が大学で専攻した心理学分野では最新の研究に触れることができ、文学や美術関係では一度は目指した分野でもあることから青春が懐かしく思い出され、また実技を交えた運動は日常のリフレッシュに役立っています。社会福祉関係のテーマは正直今まで関心が薄かった分野でしたが、社会を知る上でも非常に有意義でした。その他たくさんありすぎて書ききれません。ありがとうございました。

鈴木 正通



1 グループの皆さん



2 グループの皆さん



3 グループの皆さん

5月16日から31日まで4日間8時限で、CCクラブ会員15名が明治学院高等学校3年生の家庭総合「高齢者」授業でスピーチを行いました。この企画は高校から社会連携課を通しCCクラブに依頼があり、3年振りに行われました。毎回3名が7~8分スピーチをし、その後質疑応答が行われました。話の内容は「ご自身これまでなにをされてきたのか。(職業や仕事の内容)どんな風に人生を歩まれてきたのか。」「現在は何をされていて、どのようなことを考え、日々どのようなたのしみを持って生活されているのか。」です。終了後に多くの高校生からそれぞれのスピーカーに感想文が送られましたが、皆さん話を真摯に聞いていただき、私たちも感銘を受けました。

高校生の感想文を抜粋して紹介します。

○様々なことに興味をもち、動いていくことが健康でつながっていくのだと思った。一方で、やはり体の衰えはあり、私たち若い世代は高齢者のことを考え気遣うことが大事なのだったと思った。

○3人とも年をとっても何か人のためになりたいとできる仕事やボランティアをしていることを知り、どなたもとても元気に見えたので、自分もそういう人になりたいと感じた。

○どの方もやはり充実した生活を送っていらっしゃると感じた。高齢者の方は、近所の方など人間関係も自然に豊かになると思っていたが、自分から行動をおこさないと人との交流がなくなっていくことを知った。

○何歳になっても夢をもっていたり、お三方もとても健康なことがとても素敵だと思った。



5/19 スピーカーの岩村さん、石川さん、岩佐さん



■運営委員会報告

2022年度の運営委員、部会員、地域CCクラブ委員は以下の通りです。

2022年度 CCクラブ運営委員会・部会メンバー

(2022年6月30日現在)

代 表		石川 啓子 ⑧		副 代 表		太田 則義 ⑦	
運営委員会	運 営 委 員		運 営 委 員		運 営 委 員		運 営 委 員
1 期	② 吉田 秀博	8 期	⑤ 秋元 宏	12 期	① 本藤 英敏		② 新井 哲也
2 期	② 野口 美津子	9 期	③ 西田 宏子	13 期	③ 小倉 朗子		① 金城 恒夫
3 期	② 雨宮 武	10 期	① 金原 智子		② 廣田 紳一		② 東 公子
5 期	① 大竹 裕	11 期	③ 丸山 幸秀	14 期	① 桑原 いづみ		③ 宮城 昭一郎
6 期	③ 忍足 恵一		① 肴倉 弘子		② 荒川 太		
7 期	② 太田 則義		② 鈴木 興雄		③ 柳川 薫子		

部 会	部 会 長 副部会長	部 会 員			
企画部会	阿部 令子⑩ 藤井 宝⑬(副)	野口 美津子② 丸山 保夫⑦ 西田 宏子⑨	平田 渥美⑫ 中嶋 博⑫ 内田 真也⑬	小川 寧子⑬ 清水 和美⑬ 松本 明⑭	塩田 範子⑭ 深澤 あつ子⑭ 須田 房子⑭
HP部会	福岡 哲郎⑩ 斎藤 正精⑥(副)	佐藤 紀子⑥ 石賀 幹春⑨	岡部 正實⑩ 松尾 知足⑭		
地域連携部会	太田 則義⑦ 今泉 昌代⑩(副) 金原 智子⑩(副)	門脇 千鶴子④ 呉 東富⑤ 大沼 礼子⑩	大塚 堅一⑪ 山岸 洋子⑪ 金城 恒夫⑬	丸毛 昭生⑬ 小杉 良子⑭	
会報部会	瀬能 正実⑩ 境 静子⑩(副) 中満 美紀⑪(副)	古橋 義弘① 太田 則義⑦ 佐藤 芳男⑪	棟方 千恵子⑫		
総務部会	岩佐 徳太郎⑨ 秋元 宏⑧(副)	石川 啓子⑧ 丸山 幸秀⑩	河野 洋子⑫ 新井 哲也⑫		

・部会長・副部会長の(副)は副部会長

地 域 C C ク ラ ブ (運 営 委 員)			
芝 C C ク ラ ブ	大塚 堅一⑪	明虹会 (港南・芝浦・台場地域)	恩地 亨輔⑩
高輪地区 C C ク ラ ブ	小峰 由紀⑩	3Aクラブ (赤坂・青山・麻布地域)	野村 知義⑧

運営委員会の●数字はグループ、それ以外の欄の○数字は期です

地域CCクラブ代表

地 域 C C ク ラ ブ (代 表)			
芝 C C ク ラ ブ	新井 隆治③	明虹会 (港南・芝浦・台場地域)	斎藤 正精⑥
高輪地区 C C ク ラ ブ	太田 則義⑦	3Aクラブ (赤坂・青山・麻布地域)	野村 知義⑧

編
集
後
記

CC通信 48号では新年度の挨拶、新体制紹介とCC大学10年目の2016年に初めて開催されて、今年度で7回目となりました定期総会と、ホームカミングデイ講演会を掲載しました。制約の中で一年延期されて修了した14期生の感想文も載せることができました。

イベントや会議方法の選択肢が増える中、CCクラブにおけるペーパーメディアとしての会報の意味を再確認し、会員の皆様にとって役立つ発信であることを願っております。今年度は年2回の刊行予定です。(10期 境 静子)

(表紙の花の写真は9期平尾恭一さん提供/総会写真は7期榎本和夫さん提供)

チャレンジコミュニティ通信 vol.48 2022年8月1日発行

発行者 チャレンジコミュニティ・クラブ

事務局 明治学院大学 総合企画室社会連携課

(株式会社明治学院サービス)

〒108-0071 東京都港区白金台1-2-37

Tel.03-5421-1555 Fax.03-5421-1556

Email ccclub@meijigakuin-s.co.jp

<http://www.minato-ccc.jp>

会 報 部 会

部 会 長 瀬能 正実 (10期)

副部会長 境 静子 (10期)

副部会長 中満 美紀 (11期)

部 員 古橋 義弘 (1期)

部 員 太田 則義 (7期)

部 員 佐藤 芳男 (11期)

部 員 棟方千恵子(12期)